

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	九州財務局長
【提出日】	平成29年5月31日
【中間会計期間】	第45期中（自 平成28年9月1日 至 平成29年2月28日）
【会社名】	菊陽緑化興産株式会社
【英訳名】	KIKUYORYOKUKA KOSAN CO.,LTD .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山口 恭廣
【本店の所在の場所】	熊本県菊池郡菊陽町曲手838番地
【電話番号】	096（232）0123（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 神田 辰浩
【最寄りの連絡場所】	熊本県菊池郡菊陽町曲手838番地
【電話番号】	096（232）0123（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 神田 辰浩
【縦覧に供する場所】	該当ありません。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の状況

回次	第43期中	第44期中	第45期中	第43期	第44期
会計期間	自平成26年 9月1日 至平成27年 2月28日	自平成27年 9月1日 至平成28年 2月29日	自平成28年 9月1日 至平成29年 2月28日	自平成26年 9月1日 至平成27年 8月31日	自平成27年 9月1日 至平成28年 8月31日
売上高 (千円)	207,068	208,972	194,302	424,789	350,345
経常損益 (千円)	21,780	26,607	32,079	3,092	32,051
中間純利益又は中間純損失 () (千円)	16,307	17,765	28,628	7,706	24,290
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	997,500	997,500	997,500	997,500	997,500
発行済株式総数 (株)	98,400	98,400	98,400	98,400	98,400
純資産額 (千円)	1,839,739	1,867,116	1,856,295	1,860,481	1,825,467
総資産額 (千円)	2,421,283	2,441,462	2,406,050	2,431,559	2,388,603
1株当たり純資産額 (円)	18,898.20	19,032.79	18,922.48	18,936.20	18,608.23
1株当たり中間純利益又は中間純損失額 () (円)	167.19	180.72	291.50	78.82	247.17
潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	76.0	76.4	77.1	76.5	76.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	55,428	30,264	43,244	8,641	1,566
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	7,169	21,498	1,139	28,409	26,131
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	45,791	806	14,301	32,984	18,807
現金及び現金同等物の中間期末 (期末) 残高 (千円)	92,143	114,455	91,592	104,883	61,509
従業員数 (人)	64	60	64	67	62
[外、平均臨時雇用者数] (人)	[1]	[1]	[1]	[1]	[1]

(注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり中間 (当期) 純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当中間会計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

3【関係会社の状況】

該当事項はありません。

4【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成29年2月28日現在

従業員数(人)	64[1]
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は[]内に当中間会計期間の平均人員を外数で記載しています。

(2) 労働組合の状況

該当ありません。なお、労使関係はおおむね良好であります。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当社における、当中間会計期間の入場者数は、メンバー2,856名、ビジター17,114名、合計19,970名となり、前年同期に比べ1,191名(5.6%)の減少となりました。これに加えて、客単価が前年同期に比べ208円減少したこと等により、営業収入(売上高)は、194,302千円(前年同期比7.0%減)になりました。

一方、販売費及び一般管理費につきましては、7,011千円(前年同期比3.7%)減少しました。

その結果、経常利益32,079千円(前年同期比20.6%増)、中間純利益28,628千円(前年同期比61.1%増)になりました。

当社の事業は単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しておりますが、部門別の業績を示すと次のとおりであります。

部門別売上構成

部門別区分	金額(千円)	前年同期比(%)
ゴルフ収入	182,876	92.2
会費収入	1,560	100.0
手数料収入	7,652	98.4
コース使用料	-	-
商品売上	2,213	152.8
合計	194,302	92.9

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

入場者実績

項目 期別 月別	メンバー			ビジター			合計		
	第44期	第45期	増減	第44期	第45期	増減	第44期	第45期	増減
9月	520	430	90	2,741	2,534	207	3,261	2,964	297
10	600	570	30	3,965	3,347	618	4,565	3,917	648
11	594	501	93	3,784	3,698	86	4,378	4,199	179
12	557	512	45	3,419	3,311	108	3,976	3,823	153
1	442	474	32	2,044	2,182	138	2,486	2,656	170
2	448	369	79	2,047	2,042	5	2,495	2,411	84
合計	3,161	2,856	305	18,000	17,114	886	21,161	19,970	1,191

(2) キャッシュ・フロー

当中間会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、税引前中間純利益を計上したものの、平成28年4月に発生した熊本地震の影響で、前事業年度において31,331千円の税引前当期純損失を計上したこと等により、前中間会計期間末に比べ22,863千円(前年同期比20.0%)使用し、当中間会計期間末には91,592千円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において営業活動の結果獲得した資金は43,244千円(前年同期比42.9%獲得)となりました。これは主に、税引前中間純利益の計上および、未払消費税等の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において投資活動の結果獲得した資金は1,139千円(前年同期は21,498千円の使用)となりました。これは、有価証券の売却によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において財務活動の結果使用した資金は14,301千円(前年同期は806千円の獲得)となりました。これは、主に会員預り金の払戻によるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

当社はゴルフ場経営を主たる事業としているため、生産及び受注の状況は記載しておりません。また、販売の状況については、「1.業績等の概要」において記載しております。

3【対処すべき課題】

当中間会計期間において当社が対処すべき課題について、重要な変更はありません。

4【事業等のリスク】

当中間会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

5【経営上の重要な契約等】

当中間会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成に当たりまして、全ての重要な点において虚偽の記載及び記載すべき事項の記載漏れはなく、採用した会計方針及びその適用方法並びに見積りの評価も含めて適正に表示しております。

(2) 当中間会計期間の経営成績の分析

当中間会計期間の経営成績は、入場者数がメンバー2,856名、ビジター17,114名、合計19,970名となり、前年同期に比べ1,191名(5.6%)の減少になりましたが、客単価が前年同期に比べ208円減少したこと等により営業収入(売上高)は、194,302千円(前年同期比7.0%減)を計上しました。一方、販売費及び一般管理費につきましては、7,011千円(前年同期比3.7%)減少しました。その結果、経常利益32,079千円(前年同期比20.6%増)、中間純利益28,628千円(前年同期比61.1%増)になりました。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

ゴルフ場業界を取り巻く経営環境は非常に競争が激しく、ダンピングによるプレー料金の値下げ及び自然環境の変化が当社の経営に影響を及ぼす要因となります。

(4) 経営戦略の現状と見通し

当社といたしましては、これらの状況を踏まえて、来場者に満足していただけるように質の高いコース整備・社員教育の充実を計り、魅力あるゴルフ場づくりに努めていく所存であります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社の資金状況について、営業活動によるキャッシュ・フローの獲得は、税引前当期純利益の計上および、未払消費税等の増加により43,244千円となりました。投資活動によるキャッシュ・フローの獲得は、有価証券の売却により1,139千円となりました。財務活動によるキャッシュ・フローの使用は、預り金の払戻により14,301千円となりました。その結果、当中間会計期間の現金及び現金同等物の中間期末残高は、91,592千円となりました。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社は開場以来、メンバーシップのゴルフ場として歩んできました。このような形態を取ることで、メンバー相互間の親睦をはかり、クオリティーのより高いゴルフ場を目指して、来場者の増加を図りたいと考えています。また今後も、プロゴルフトーナメントを積極的に行い、全国的にアピールして行きたいと考えております。

第3【設備の状況】

1【主要な設備の状況】

当中間会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

2【設備の新設、除却等の計画】

当中間会計期間において、前事業年度末において計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	238,650
計	238,650

【発行済株式】

種類	中間会計期間末現在発行数(株) (平成29年2月28日)	提出日現在発行数(株) (平成29年5月31日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	98,400	98,400	非上場	単元株式数 150株
計	98,400	98,400	-	-

(注) 当社の株式を譲渡により取得するには、取締役会の承認を要する旨定款に定めております。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成28年9月1日～ 平成29年2月28日	-	98,400	-	997,500	-	294,500

(6) 【大株主の状況】

平成29年 2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
大野 英明	熊本県熊本市南区	3,900	3.96
山口 恭廣	熊本県熊本市北区	3,150	3.20
児玉 文雄	熊本県熊本市東区	2,700	2.74
田中 信敬	熊本県熊本市中央区	2,100	2.13
(株)田中材木店	熊本県熊本市中央区琴平 2 - 4 - 10	1,650	1.68
田中 信敏	熊本県熊本市中央区	1,350	1.37
深浦 修	熊本県熊本市中央区	1,050	1.07
児玉 文洋	熊本県熊本市東区	1,050	1.07
(株)宮食	熊本県熊本市中央区上通町 6 - 12	1,050	1.07
山口 仁子	熊本県熊本市中央区	900	0.91
(株)熊本銀行	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目29 - 20	900	0.91
計	-	19,800	20.11

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年 2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 98,100	654	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	98,400	-	-
総株主の議決権	-	654	-

【自己株式等】

平成29年2月28日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
菊陽緑化興産株式会社	熊本県菊池郡菊陽町 曲手838	300	-	300	0.30
計	-	300	-	300	0.30

2【株価の推移】

当社株式は非上場でありますので、該当事項はありません。

3【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

第5【経理の状況】

1．中間財務諸表の作成方法について

当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間会計期間（平成28年9月1日から平成29年2月28日まで）の中間財務諸表について、くまもと監査法人により中間監査を受けております。

3．中間連結財務諸表について

当社は子会社はありませんので、中間連結財務諸表は作成しておりません。

1【中間財務諸表等】

(1)【中間財務諸表】

【中間貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年8月31日)	当中間会計期間 (平成29年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	271,509	301,592
未収入金	10,376	10,261
未収還付法人税等	582	-
仮払金	-	33
商品	1,343	2,324
貯蔵品	2,596	2,624
前払費用	1,052	1,379
繰延税金資産	5,691	5,691
流動資産合計	293,153	323,907
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2 161,413	2 156,037
構築物（純額）	3 25,941	3 24,434
車両運搬具（純額）	6,416	6,913
工具、器具及び備品（純額）	22,386	20,576
土地	2 882,497	2 882,497
コース勘定	807,318	807,318
立木	26,330	26,330
リース資産（純額）	14,482	11,376
有形固定資産合計	1 1,946,786	1 1,935,484
無形固定資産		
電話加入権	1,039	1,039
リース資産	6,076	5,316
無形固定資産合計	7,115	6,356
投資その他の資産		
投資有価証券	113,677	112,843
長期預金	3,900	4,500
長期前払費用	10	-
繰延税金資産	23,039	22,101
その他	920	857
投資その他の資産合計	141,547	140,301
固定資産合計	2,095,450	2,082,142
資産合計	2,388,603	2,406,050

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年8月31日)	当中間会計期間 (平成29年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,172	2,248
1年内返済予定の長期借入金	4,113	12,339
リース債務	8,202	7,950
未払法人税等	4,039	8,573
未払消費税等	1,023	7,461
賞与引当金	4,074	3,411
未払金	22,352	11,462
未払費用	568	480
前受金	7,818	10,014
預り金	6,245	6,082
流動負債合計	62,611	70,024
固定負債		
長期借入金	77,266	69,040
リース債務	13,693	9,843
退職給付引当金	37,566	37,477
役員退職慰労引当金	14,200	15,770
長期預り金	357,800	347,600
固定負債合計	500,525	479,731
負債合計	563,136	549,755
純資産の部		
株主資本		
資本金	997,500	997,500
資本剰余金		
資本準備金	294,500	294,500
その他資本剰余金	4,240	4,240
資本剰余金合計	298,740	298,740
利益剰余金		
利益準備金	21,320	21,320
その他利益剰余金		
別途積立金	453,000	453,000
繰越利益剰余金	71,777	100,406
利益剰余金合計	546,097	574,726
自己株式	4,800	4,800
株主資本合計	1,837,537	1,866,166
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	12,070	9,871
評価・換算差額等合計	12,070	9,871
純資産合計	1,825,467	1,856,295
負債純資産合計	2,388,603	2,406,050

【中間損益計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成27年9月1日 至 平成28年2月29日)	当中間会計期間 (自 平成28年9月1日 至 平成29年2月28日)
売上高	208,972	194,302
売上原価	989	1,108
売上総利益	207,983	193,194
販売費及び一般管理費	1 189,207	1 182,195
営業利益	18,775	10,998
営業外収益	2 8,321	2 21,540
営業外費用	3 489	3 459
経常利益	26,607	32,079
特別利益	6 2,160	6 936
特別損失	7 1,440	-
税引前中間純利益	27,327	33,016
法人税等	5 9,561	5 4,387
中間純利益	17,765	28,628

【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間（自 平成27年9月1日 至 平成28年2月29日）

（単位：千円）

	株主資本							利益剰余金 合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	その他利益剰余金		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		別途積立金	繰越利益剰 余金	
当期首残高	997,500	294,500	4,240	298,740	21,320	453,000	96,068	570,388
当中間期変動額								
中間純利益	-	-	-	-	-	-	17,765	17,765
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	-
自己株式の処分	-	-	-	-	-	-	-	-
株主資本以外の項目の当中間期 変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-
当中間期変動額合計	-	-	-	-	-	-	17,765	17,765
当中間期末残高	997,500	294,500	4,240	298,740	21,320	453,000	113,834	588,154

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評 価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	2,400	1,864,228	3,747	3,747	1,860,481
当中間期変動額					
中間純利益	-	17,765	-	-	17,765
自己株式の取得	2,400	2,400	-	-	2,400
自己株式の処分	4,800	4,800	-	-	4,800
株主資本以外の項目の当中間期 変動額（純額）	-	-	13,530	13,530	13,530
当中間期変動額合計	2,400	20,165	13,530	13,530	6,635
当中間期末残高	-	1,884,394	17,277	17,277	1,867,116

当中間会計期間（自 平成28年9月1日 至 平成29年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	997,500	294,500	4,240	298,740	21,320	453,000	71,777	546,097
当中間期変動額								
中間純利益	-	-	-	-	-	-	28,628	28,628
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	-
自己株式の処分	-	-	-	-	-	-	-	-
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-
当中間期変動額合計	-	-	-	-	-	-	28,628	28,628
当中間期末残高	997,500	294,500	4,240	298,740	21,320	453,000	100,406	574,726

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	4,800	1,837,537	12,070	12,070	1,825,467
当中間期変動額					
中間純利益	-	28,628	-	-	28,628
自己株式の取得	4,800	4,800	-	-	4,800
自己株式の処分	4,800	4,800	-	-	4,800
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	-	-	2,199	2,199	2,199
当中間期変動額合計	-	28,628	2,199	2,199	30,828
当中間期末残高	4,800	1,866,166	9,871	9,871	1,856,295

【中間キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成27年9月1日 至 平成28年2月29日)	当中間会計期間 (自 平成28年9月1日 至 平成29年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	27,327	33,016
減価償却費	18,105	16,185
有価証券売却損益(は益)	-	936
賞与引当金の増減額(は減少)	1,569	662
退職給付引当金の増減額(は減少)	644	88
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	2,450	1,570
受取利息及び受取配当金	1,974	1,915
支払利息	489	448
売上債権の増減額(は増加)	721	115
たな卸資産の増減額(は増加)	537	1,009
その他の流動資産の増減額(は増加)	494	365
その他の固定資産の増減額(は増加)	785	69
仕入債務の増減額(は減少)	1,785	1,924
未払消費税等の増減額(は減少)	107	6,438
その他の流動負債の増減額(は減少)	5,547	6,249
小計	29,519	44,692
利息及び配当金の受取額	1,974	963
利息の支払額	490	443
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	738	1,967
営業活動によるキャッシュ・フロー	30,264	43,244
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,800	600
有形固定資産の取得による支出	19,698	4,120
投資有価証券の取得による支出	50,000	-
投資有価証券の売却による収入	50,000	5,859
投資活動によるキャッシュ・フロー	21,498	1,139
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	19,000	-
長期借入金の返済による支出	15,592	-
自己株式の取得による支出	2,400	4,800
自己株式の売却による収入	4,800	4,800
会員預り金の返還による支出	900	10,200
リース債務の返済による支出	4,101	4,101
財務活動によるキャッシュ・フロー	806	14,301
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	9,572	30,082
現金及び現金同等物の期首残高	104,883	61,509
現金及び現金同等物の中間期末残高	114,455	91,592

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) その他有価証券

時価のあるもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) 商品及び貯蔵品

最終仕入原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

(減価償却方法の変更)

「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」

(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を前事業年度より適用し、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定率法に変更しております。

これにより当中間会計期間に係る中間財務諸表と、前中間会計期間に係る中間財務諸表との間に会計方針の相違があります。

(2) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額基準により計上しています。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における退職給付債務の見込額を計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、当社内規に基づく中間期末要支給見積額を計上しております。

4. 中間キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

5. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

(中間貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成28年8月31日)	当中間会計期間 (平成29年2月28日)
	1,189,417千円	1,204,839千円

2 担保資産及び担保付債務

有形固定資産中、下記資産は設備資金等の借入に充てるため、担保に供しております。

	前事業年度 (平成28年8月31日)	当中間会計期間 (平成29年2月28日)
建物	143,250千円	138,690千円
土地	735,957	735,957
計	879,207	874,647

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年8月31日)	当中間会計期間 (平成29年2月28日)
1年内返済予定の長期借入金	4,113千円	12,339千円
長期借入金	77,266	69,040
計	81,379	81,379

3 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年8月31日)	当中間会計期間 (平成29年2月28日)
圧縮記帳額 (うち、構築物)	1,440千円	1,440千円

4 消費税等の取扱い

当中間会計期間において、仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、流動負債の「未払消費税等」として表示しております。

(中間損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年2月29日)	当中間会計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)
役員報酬	3,480千円	3,360千円
給料・賃金	39,453	39,404
キャデイ費	43,955	42,156
法定福利費	13,853	13,380
材料費	11,195	10,394
減価償却費	18,105	16,185

2 営業外収益のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 平成27年9月1日 至 平成28年2月29日)	当中間会計期間 (自 平成28年9月1日 至 平成29年2月28日)
受取利息	15千円	15千円
熊本地震寄付金	-	9,100
雇用調整助成金	-	4,795
登録名義変更料	2,500	3,000

3 営業外費用のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 平成27年9月1日 至 平成28年2月29日)	当中間会計期間 (自 平成28年9月1日 至 平成29年2月28日)
支払利息	489千円	448千円

4 減価償却実施額

	前中間会計期間 (自 平成27年9月1日 至 平成28年2月29日)	当中間会計期間 (自 平成28年9月1日 至 平成29年2月28日)
有形固定資産	17,346千円	15,425千円
無形固定資産	759	759

5 法人税等の表示方法

当中間会計期間及び前中間会計期間における税金費用については、簡便法により計算しているため、法人税等調整額は「法人税等」に含めて表示しています。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号平成28年3月28日)を当中間会計期間から適用しております。

6 その他特別利益の内容は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 平成27年9月1日 至 平成28年2月29日)	当中間会計期間 (自 平成28年9月1日 至 平成29年2月28日)
国庫補助金	1,440千円	- 千円
E V充電器設置権利金	720	-
有価証券売却益	-	936

7 その他の特別損失の内容は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 平成27年9月1日 至 平成28年2月29日)	当中間会計期間 (自 平成28年9月1日 至 平成29年2月28日)
固定資産圧縮損	1,440千円	- 千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

前中間会計期間(自平成27年9月1日至平成28年2月29日)

発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当中間会計期間増加株式数(株)	当中間会計期間減少株式数(株)	当中間会計期間末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	98,400	-	-	98,400
合計	98,400	-	-	98,400
自己株式				
普通株式(注)	150	150	300	-
合計	150	150	300	-

(注) 自己株式の増加は、平成26年11月28日開催の定時株主総会決議による取得によるものであります。
 自己株式の減少は、新規会員の入会に伴う新株式の発行に代えて、自己株式を処分したものであります。

当中間会計期間(自平成28年9月1日至平成29年2月28日)

発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当中間会計期間増加株式数(株)	当中間会計期間減少株式数(株)	当中間会計期間末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	98,400	-	-	98,400
合計	98,400	-	-	98,400
自己株式				
普通株式(注)	300	300	300	300
合計	300	300	300	300

(注) 自己株式の増加は、平成27年11月28日開催の定時株主総会決議による取得によるものであります。
 自己株式の減少は、新規会員の入会に伴う新株式の発行に代えて、自己株式を処分したものであります。

(中間キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前中間会計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年2月29日)	当中間会計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)
現金及び預金勘定	331,055千円	301,592千円
預入期間が3か月を超える定期預金	216,600	215,400
現金及び現金同等物	114,455	86,192

2. 重要な非資金取引の内容

	前中間会計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年2月29日)	当中間会計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)
ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額	9,188千円	-千円

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

事務用機器(工具、器具及び備品)であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

前事業年度(平成28年8月31日)

金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位:千円)

	貸借対照表計上額()	時価()	差額
(1) 現金及び預金	271,509	271,509	-
(2) 未収入金	10,376	10,376	-
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	113,677	113,677	-
(4) 長期預金	3,900	3,917	17
資産計	399,464	399,479	17
(1) 買掛金	4,172	4,172	-
(2) 未払金	22,352	22,352	-
(3) 長期借入金	81,379	81,402	23
(4) リース債務	21,895	21,525	370
負債計	129,799	129,451	347

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、並びに (2) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、証券会社から入手した価格を元に算定しております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(4) 長期預金

長期預金の時価について、将来キャッシュ・フローの合計額を期末から一番近い期日に預け入れを行なった預金利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(5) 買掛金、並びに (6) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(7) 長期借入金

長期借入金については、変動金利により短期間で市場金利を反映するため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

長期預り金は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

当中間会計期間（平成29年2月28日）

金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	中間貸借対照表計上額（ ）	時価（ ）	差額
(1) 現金及び預金	301,592	301,592	-
(2) 未収入金	10,261	10,261	-
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	112,843	112,843	-
(4) 長期預金	4,500	4,518	17
資産計	429,197	429,215	17
(5) 買掛金	2,248	2,248	-
(6) 未払金	11,462	11,462	-
(7) 長期借入金	81,379	81,396	17
(8) リース債務	17,794	17,532	261
負債計	112,883	112,640	243

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、並びに (2) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、証券会社から入手した価格を元に算定しております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(4) 長期預金

長期預金の時価について、将来キャッシュ・フローの合計額を期末から一番近い期日に預け入れを行なった預金利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(5) 買掛金、並びに (6) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(7) 長期借入金、並びに (8) リース債務

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

長期預り金は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

(有価証券関係)

その他有価証券

前事業年度(平成28年8月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(2) その他	5,255	4,918	337
	小計	5,255	4,918	337
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	108,422	125,978	17,556
	(2) その他	-	-	-
	小計	108,422	125,978	17,556
合計		113,677	130,896	17,219

当中間会計期間(平成29年2月28日)

	種類	中間貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	111,928	125,978	14,050
	(2) その他	914	946	31
	小計	112,843	126,925	14,082
合計		112,843	126,925	14,082

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(平成28年8月31日)

当社は、デリバティブ取引を全く行っていませんので、該当事項はありません。

当中間会計期間(平成29年2月28日)

当社は、デリバティブ取引を全く行っていませんので、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、ゴルフ事業及びこれに付帯する業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前中間会計期間(自 平成27年9月1日 至 平成28年2月29日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当中間会計期間(自 平成28年9月1日 至 平成29年2月28日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前中間会計期間 (自 平成27年 9月 1日 至 平成28年 2月29日)	当中間会計期間 (自 平成28年 9月 1日 至 平成29年 2月28日)
1株当たり中間純利益金額	180.72円	291.50円
(算定上の基礎)		
中間純利益金額	17,765	28,628
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る中間純利益金額(千円)	17,765	28,628
普通株式の期中平均株式数(株)	98,302	98,210

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

	前事業年度 (平成28年 8月31日)	当中間会計期間 (平成29年 2月28日)
1株当たり純資産額	18,608.23円	18,922.48円
(算定上の基礎)		
純資産の部の合計額(千円)	1,825,467	1,856,295
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	-	-
普通株式に係る中間期末(期末)の純資産額(千円)	1,825,467	1,856,295
1株当たり純資産額の算定に用いられた 中間期末(期末)の普通株式の数(株)	98,100	98,100

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第44期）（自 平成27年9月1日 至 平成28年8月31日）平成28年11月29日九州財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

平成29年5月31日

菊陽緑化興産 株式会社

取締役会 御中

くまもと監査法人

指定社員 公認会計士 荒木 幸介 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 入江 佳隆 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている菊陽緑化興産株式会社の平成28年9月1日から平成29年8月31日までの第45期事業年度の中間会計期間（平成28年9月1日から平成29年2月28日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、中間キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、菊陽緑化興産株式会社の平成29年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間（平成28年9月1日から平成29年2月28日まで）の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

() 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは中間監査の対象には含まれていません。